

第2ブロック研究部

No. 9

令和6・7年度 研究主題

自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児を育てる
—かいたり、つくったりする中で—

第3回 研究部会 講演会 令和7年7月31日（木）場所 桜宮幼稚園

演題 「かいたり、つくったり…一人一人の思いをその子なりの表現へ」

講師 大阪短期大学 非常勤講師

【造形活動】

- ・造形活動には かく活動・つくる活動・造形遊びがある。
- ・0歳から2歳児の造形遊びは、造形的な表現遊びとして捉え、かいたり、つくったり、遊んだりという活動全てを造形遊びと捉える。
- ・3歳から5歳児ではかく活動、つくる活動、造形遊びを通して、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動のことを言う。

【材料遊び】

みんながでけて簡単で楽しく、「～のつもり」になって繰り返し取り組めるので、遊びながら材料用具の扱い方に慣れ、特性を知ることができる。

形や作品に捉われず、「面白そう」「楽しい」「簡単だからできる」「できたからまたやりたい」小さな成功経験を増やしていくことが、子どもたちの大きな自信につながっていく。

ねらい

- ・材料用具の使い方に慣れる(のり、はさみ、パスなど)
材料が手になじんだものになっているからこそ、その子なりの表現ができる
- ・材料の特性を知る
特性を遊びながら知る(パスは絵の具をはじく、水性ペンは水に溶ける)
- ・心を育てる(意欲、自信)
達成感が自信につながる

何度も繰り返せる遊び

材料遊びの例

〈3歳児〉
「～のつもり」になってかく、つくることを楽しむ

- スパゲッティ (絵の具のはじき絵)**
- ・黒のフライパンの画用紙を用意する
 - ・バスのなぐりがきをする
 - ・絵の具をソースに見立ててぬる

お料理をしているつもりになってかくことができる

バスが絵具をはじくことで、バスや絵の具に興味をもつ

〈4歳児〉
自分なりの表現でかく、つくることを楽しむ

ジュースやさん

- ・コップの形に切った画用紙を用意する
- ・バスで好きな果物や水をかく
- ・絵の具をジュースに見立ててぬる
- ・ストローを貼る

自分の思いが表現できる

繰り返し遊ぶ

〈5歳児〉
かく、つくるなどの活動の中で、自分なりのお話づくりができる

迷路で遊ぼう

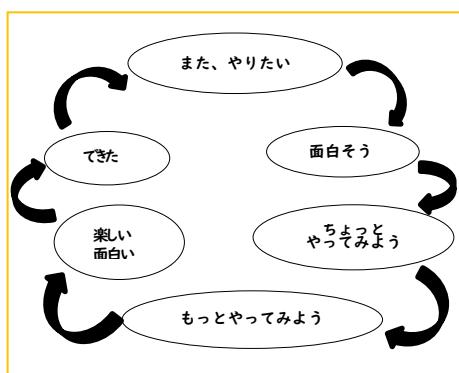
- ・ペットボトルの蓋にイラストを貼りコマをつくる
- ・細長い画用紙を用意する
(紙の目に沿って細長く切ったものを用意する)
- ・折る
- ・つなげる

遊びながらつくっていくことで、どんどんイメージが広がっていく

一人でつくるのも楽しい、友達や先生とつくるのも楽しい

- ・簡単でこと楽しいこと
- ・皆ができること
- ・「～のつもり」になって、くり返し取り組めること

講演会での実技研修の様子



○ ジュースやさん

グラスの形に切った画用紙に、フルーツや氷などを思い思いにバスでかいた。そこにジュースに見立てた薄く溶いた絵具を塗り、いろいろなジュースをつくった。
部員は、様々な表現を楽しんでいた。講師の先生が「おいしそうですね」「素敵ですね」などと各々の表現を受け止め、温かい言葉をかけてくださることで、安心して楽しむことができ、「もっとかいたりつくったりしたい」という気持ちになった。

○ 迷路で遊ぼう

材料は画用紙とペットボトルキャップのみ。自分の発想次第で「次はこうしてみよう」「これはうまくいくかな」と工夫しながらイメージを広げて遊ぶ楽しさを味わった。最後は部員全員の迷路をつなげて、大きな迷路が完成した。楽しいからこそ遊びが継続することを実感し、部員同士、やりとりすることで達成感を味わった。かいたり、つくったりして表現することを楽しむ幼児の気持ちを知ることができた。

材料遊びで育つこと

- ・かいたりつくったりすることは、きれいな作品をつくることが目的ではない。遊びの中で特徴を知り何度も繰り返し遊ぶことで、材料・用具を上手く使えるようになる。そして、繰り返し遊ぶからこそ楽しくなる。楽しく遊ぶからこそ達成感を感じ、自信となる。
- ・材料遊びを通して心が育つ。感じる心「絵の具ってきもちいいな、この色きれいだな」と表す心。「やってみよう」と自分で感じたことを、幼児自身が実際にかくことで、頭と手と心がバランスよく育っていく。バランスよく育つことで、その子なりの表現ができるようになる。

乳幼児期に育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎とは

気付いたり、分かったり、できるようになったりするということ。

思考力・判断力・表現力の基礎とは

自分で考えたり、決めたり選んだりすること。
そしてそれをその子なりの表現にしていくこと。

学びに向かう力・人間性等とは

できて嬉しい、やってみたい、褒めてもらって嬉しかったから人のことも認めることができるということ。

知識及び技能の基礎

思考力・判断力
表現力等の基礎

遊びを通して
総合的な指導

学びに向かう
力・人間性等
の基礎

子どもが自分自身で選んだり決めたり考えたりそして試したりする。
保育者はそのときに関わっていくことでその子なりの表現になってくる。

子ども主体の保育とは

- ・子どもの遊びを読みとて、子どもが主体になる瞬間を見逃さない。
- ・保育者は子どもの遊びの最大の理解者であり協力者になる。
- ・自分で見つけた答えがその子の知識になるように、考えたり気付いたり、試したり、工夫したりする時間と場所を十分に保障する。

実技研修（貫江田幼稚園・海老江西園より）

- ・コーヒーフィルターに、教師が「魔法の水をかけるよ」と言い、水をかけると、子どもたちは、いろいろな色が滲む様子を見ていた。その面白さに心が動き、滲み絵を使って、七夕飾りのちょうちんや短冊をつくる遊びが続いた。
- ・段ボールにゼリーカップやプリンカップを貼って玉入れをつくった。また、紙飛行機から流れ星ボールをつくることを楽しみ、的当てゲームをつくった。これらの遊びが、夏祭りのお店屋さんになり、ついたもので遊ぶ楽しさとなつた。

感想・学んだこと

- ・造形活動とは、子どもが遊びや活動を楽しく感じ、繰り返し遊ぶ中で心を動かし、表現したくなり、何度も繰り返し遊ぶ中で、主体的な学びが沢山見られるものであるという話を聞いた。その後、教師自身が実技研修をしたことで、幼児にとって楽しい造形活動とは何なのかを体験し、造形活動の楽しさを感じることができた。
- ・育みたい資質・能力の話では、一人一人の思いを大切に、その子なりの表現があふれる造形活動の中で、子ども自身が答えを見つけていくことが、子ども主体の保育(学ぶ子どもを育てる)であるということを学んだ。
- ・「技法は魔法」「教師は魔法使い」という言葉が印象的だった。子どもたちが、まず「やってみたい」「面白そう」と興味や関心をもって造形表現に取り組めることが大切であることが分かった。